



巻頭言 「森のようちえん」という乳幼児教育

稚内市教育委員会 教育委員 伊藤 輝之



「森のようちえん」という言葉を聞いたことがありますか？

もともとは1950年代にデンマークではじまった「自然体験活動を中心とした幼児教育」のことで、現在は北欧やドイツを中心に園舎を持たず毎日森へ通って自然体験をする幼稚園が多数存在しています。日本では2000年頃から少しずつ広がりをみせ、ここ10年ほどで急速に全国に広まっています。昔から保育所・幼稚園で野外保育や自然保育、青空保育といった自然体験活動がありましたが、日本の「森のようちえん」はこの枠を超えて多様なものになっています。お母さん方が自ら活動する自主保育や共同保育、自然学校等が開催する親子イベント、毎日通うものから定期開催や単発的な不定期開催、フィールドは森だけでなく海や川、里山、畑、都市公園など幅広く捉えられています。そして、既存の幼稚園との混同を避けるためひらがな表記にし、自然体験を基軸とした子育て・保育・幼少期教育の総称として「森のようちえん」と呼んでいます。長野県や鳥取県、広島県、滋賀県、三重県、岐阜県など自治体をあげて推進しているところも出てきました。ちなみに、私は昨年春に「NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟」の理事になり、「森のようちえん」の普及啓発に携わっています。

この「森のようちえん」ですが、当然子ども達が自然体験することを目的に、そこから得られる心身の発達をねらっています。一方で自然体験を手法とすることで、子どもの誰もが持っている好奇心や自らより良く成長しようとする力を信じ、主体性や自ら考えて行動する力、人と繋がれる力、レジリエンス（回復力・しなやかさ）、自己肯定感など「生きる力」を高めるために活動をしているところも特徴と言えます。いわゆる非認知能力の育成を目指しています。このことは一般的な保育所・幼稚園でも目標に掲げているとは思いますが、「森のようちえん」ではこれらを実現するために子どもの自由を尊重して活動しているところが特徴です。保育者は指導的というよりは支援的であり、年齢ごとに分けた一斉保育ではなく異年齢の中で各々の発達や個性に寄り添いながら見守る姿勢を重要視しています。そして今、「森のようちえん」の出口となる小学校の新たな形態も求められるようになってきました。「森のしょうがっこう」と呼ぶのでしょうか、従来の学校とは違う新たな学びのスタイルを持つ学校のことです。フリースクールとして既に活動しているところも出ています。昨今の生き苦しい様々な社会事情を踏まえ、多様な学びの場が求められている現れではないでしょうか。

話題は少し堅苦しく流れましたが、「森のようちえん」の現場は子ども達の笑顔とエネルギーに溢れる日常があります。自然の中でやりたい遊びを好きなだけやる中で、仲間と過ごし、楽しさや喜び、悲しさや悔しさ、達成や失敗、試行や創造を日々繰り返して体験から様々なことを学び成長しているのです。「森のようちえん」は乳幼児期に必要な体験がたくさん詰まっている教育だと考えています。私が「ゆうち自然学校」で提供している活動も、「勇知保育所」で実践している保育もこの「森のようちえん」の流れを組んだものです。この文章を読んで「森のようちえん」に興味を持たれた方は、ぜひ私達の活動を見に来てください！

特集

1. **勇退される先生方から**
2. **小中9年間を通した「情報活用能力」育成に向けて**
情報活用能力の指導体系表・タブレット学習における各学年の到達目標
3. **良き師は隣の席にいる** 稚内中央小学校 永田淳一先生／稚内南中学校 武山亮子先生